



光が丘地区内の子どもに関する公共施設の多くが、建て替え等の対策を検討する時期を迎えている中で、閉校予定の青葉小学校を「どのような場所にしていきたいか」、地域の皆さんとともに考えることを目的に、市民対話ワークショップを開催してきました。

3月21日(月・祝)に第4回(最終回)ワークショップを開催しました！

第4回ワークショップは「実現に向けて、自分事としてアイデアなどを考えて再編案をまとめよう！」をテーマに行いました。

ワークの流れ

ワーク1：実現に向けて、自分事としてアイデアなどを出し合おう！

- (1) 第1回から第3回を振り返って、再編コンセプトに磨きをかける。
- (2) 実現カードを使って、2人1組で実現に向けたアイデアなどを出した後、テーブル内で共有する。

誰が？ (例) 地域 / 民間 / 市(行政) / 自分
何を？ (例) 民間連携 / 節約・稼ぐ / 周知・PR

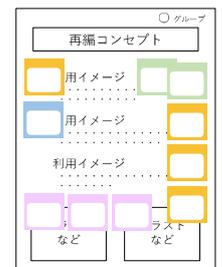
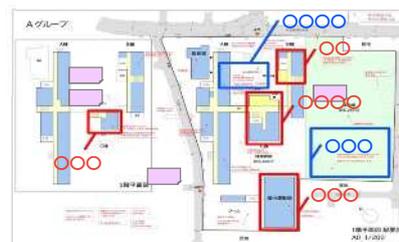
【実現カードの種類】

| | | | |
|----------------|--------------|--------------|--------------|
| 自分たちに できること | お金を どうするか | 運営を どうするか | 〇〇を どうするか |
|----------------|--------------|--------------|--------------|



ワーク2：再編案をまとめよう！

- (1) ワーク1を踏まえ、ゾーニングを再検討する。
- (2) 期待出来る効果や地域の未来像を考える。
- (3) ワークの結果を全体で発表する。



讃岐先生からの、最終回の地域へ向けたメッセージ



東京都立大学建築学科で助教を務める。専門は都市計画。多数の自治体で公共施設再編アドバイザーや市民ワークショップの講師を担っている。

じぶんたちでつくりあげる

議論を通じて作り上げられた場は、議論に参加してくれた方や地域の人など、皆さんに愛される場になるはず。青葉小もきっとそんな場所になると期待しています。今後も積極的に作り上げるプロセスに参加して欲しいです。

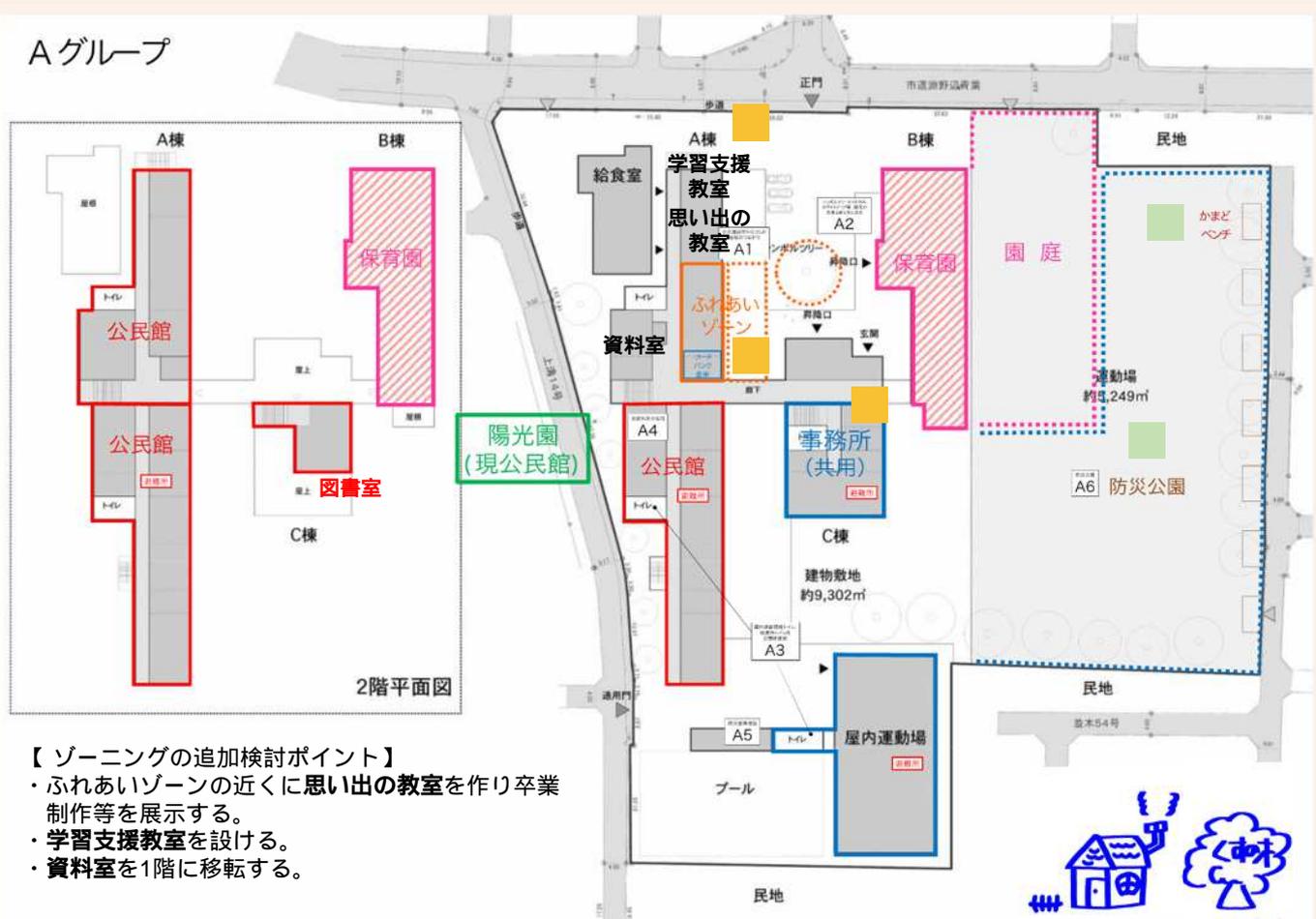
実装・実験・試行

WSでは様々なアイデアがありました。採算性、まちとの親和性など様々な観点から、それが実現できるのか確認してみたいですね。最初から完成を目指さずに試行錯誤しながら光が丘らしい場所を作っていくのも一つの方法です。

仲間を増やす

光が丘地区は発信力・行動力・創造力が強い地域です。それを生かして、ぜひ知人・友人にここで議論したことを伝えてもらいたいです。WS参加者にとどまらず、仲間を増やしていくことが、これからの詳細な検討・議論に生きるはず。です。

— Aグループのワーク結果 —



📍 目指す未来像

- ・地域の皆さんが笑顔になれる場所、憩いの場 / 久しぶりに会う人と会話ができる場
- ・多世代交流の場「スクランブルスペース」「光が丘スクエア」「青葉くすの木ホーム」

手作り出来るものは自分達で作成する。例えばかまどベンチの材料には、相模原市の森林の間伐材や廃材を使用してコストを抑える。地域の皆が防災公園の掃除や見守りを行う。

* 最初は行政(公的補助金)で賄う。その後は、学校施設の再活用を大きく宣伝し、クラウドファンディングで資金を募集する。民間企業の協賛金も検討する。

事務所に受付窓口を設けて、駐在してもらう地域ボランティアを募る。ふれあいゾーンは事業者(パン屋など)に運営してもらう。

(例) 松ヶ丘園、OHANA BAKE
学習支援教室は、社会福祉協議会や地域の中高生、大学生が運営する。

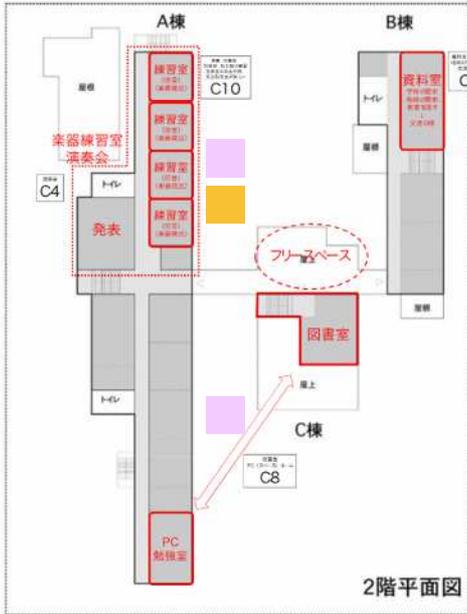
* 陽光園と保育園の専用スペースをはっきりさせるために、壁の色を分ける。(共有か専用かが分かりやすいと一般の方も利用しやすい。)

特に2点いいなと思うところがありました。1つは、お金についてステップを分けて考えているところです。スタートアップ時には補助を得ながらも、その先は自分達で運営出来るようにクラウドファンディング等の新たな手法を使って補助から脱却しようとする。最終的には「自分たちで」と考える姿勢が表れていると思います。もう1つは、例えばOHANA BAKEなど、入ってもらいたい事業者の顔も具体的に思い描いている点です。この施設をリアリティをもって真剣に考えてくれていることがわかります。



— Cグループのワーク結果 —

Cグループ



2階平面図

【ゾーニングの追加検討ポイント】

- ・ 背もたれのあるブランコ・親子で滑る滑り台など、障がい児が遊ぶことのできる遊具のある公園
- ・ 障がい児と健常児が交流できる公園
- ・ トイレに暖房をつけて教室との温度差をなくす



1階平面図 配置図
AO 1/200

📍 目指す未来像

- ・ 主役は子どもたち、子どもたちが作り活躍でき、ずっと続いていく場所づくり
- ・ お年寄りの拠り所となり、障がい者も健常者も受け入れられる施設

パン作りや実験・プログラミング教室などのフリーの学び舎を市民で運営する。

- 子どもまちづくり会議の中学生に防音室、学習室、発表室、音楽室などの運営を任せる。
- * 施設管理は市で行い、今後の運営管理は地域で行う。施設の補修などを市に担ってもらいたい。
- * 運営の仕方を地域の各団体とよく相談をする。

妥当な使用料を設定し、学生は安くする。夕方までは子どもが無料で、夜は社会人に有料でお金をとるなど時間制で利用したい。小さな催し物で入場料をいただき、運営資金に充てる。地域でカフェをやりたい人に委託し、有料で運営する。寄せ書きコーナーもカフェと一緒に管理。個人や地域運営委員会が図書館で本の販売や講演会を行う。

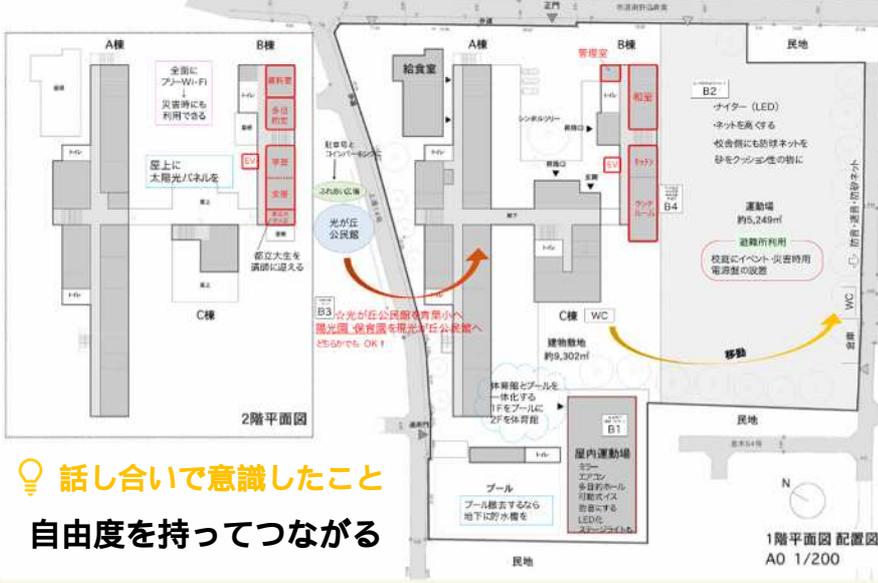
子どもたちが主役であることが前面に出ています。健常児も障がい児も「主役は子ども」と言い切れるところがCグループの強みであり特徴だと思いました。運営まで子どもに任せるといのは普段は発想しづらいことですが、子どもまちづくり会議等の子ども達主体の地域組織が生きている光が丘地区では、託せば応えてくれるのではないかと期待できます。「主役は子ども」をかなえるために、普段は大人の領域と考えがちな根本の課題から関わってもらおうというアイデアは、素晴らしい提案だと思います。



Bグループのワーク結果

参加者が欠席だったため、テーブルファシリテーターである大学生と市職員が、Bグループの思いを汲みながらワークしました。

Bグループ



【第3回までのアイデア】

- ・現状の公民館の機能を小学校に持ってきて、公民館に陽光園又は、保育園の機能を入れる。
- ・B棟はフリーの場所として憩いの場にしていきたい。

【追加検討したこと】

- ・校庭にキッチンカーを設けて、地域の飲食店がランチルームと連携したり、フリマなどの地域のイベントを開催して、賑わいを生む。運営費や追加投資に充てる。
- ・学習支援ルームでは、近隣の大学生にリモート参加してもらうなど運営方法を工夫する。
- ・体育館とプールの一体化利用については、民間のダンススクールやスポーツジムに活用してもらう。

💡 話し合いで意識したこと
自由度を持ってつながる

第3回までの地域のアイデアを踏まえて、事業全体の大枠から空間利活用アイデアの実現まで、幅広く検討してくれました。特にランチルームや学習支援ルーム、校庭等で具体的な活動や実現方法、資金捻出の提案は、事業の詳細検討に生きる大切な成果だったと思います。



ご参加いただきありがとうございました！



オープンハウスのお知らせ

光が丘地区の公共施設再編に向け、全4回の市民対話ワークショップを開催し、閉校後の学校跡施設（青葉小学校）の利活用について考えてきました。

今回は、地域にお住まいのより多くの皆さんにこの取組を知ってもらうため、パネルを使いながら施設の現状を説明し、意見やアイデアを募集しますので、お気軽にご参加ください。また、WEBアンケートも実施します。

オープンハウス

| 実施日 | 時間 | 場所 |
|--------------|--------|--------------|
| 令和4年4月 9日(土) | 午前10時 | ユーコープ |
| 〃 4月10日(日) | ～ 午後4時 | ミアクチーナ並木あおば店 |
| | | 光が丘公民館 |

事前受付はありません。お気軽にお立ち寄りください。荒天の場合、中止又は日程を変更する場合があります。

WEBアンケート

実施期間：4月9日(土)～4月15日(金)

アンケート：相模原市ホームページ>トップページ>中央区サイト >光が丘地区の公共施設再編に向けた取り組み

